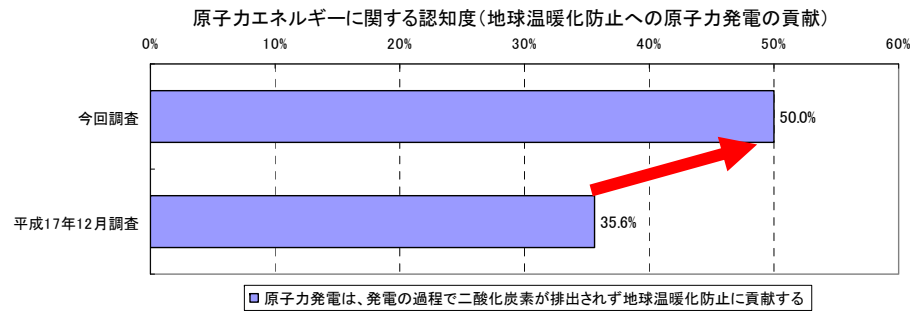


「原子力に関する特別世論調査」の結果のポイント

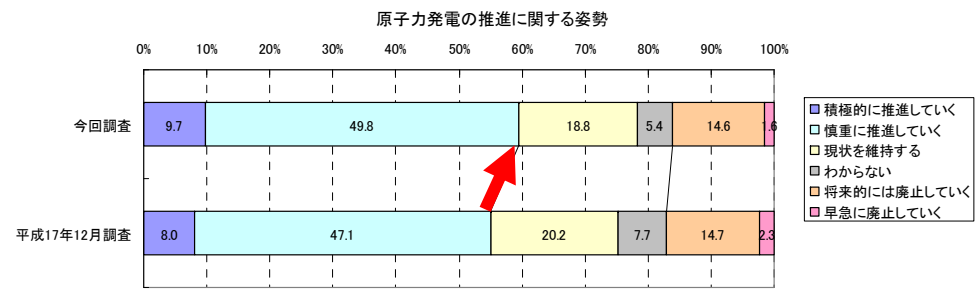
1. 原子力エネルギーに関する認知度

- 原子力発電が「地球温暖化防止に貢献する」ことを知っている割合が、平成17年調査に比して**10%以上高まった**
- 回答者の半数以上が「**高レベル放射性廃棄物**」と呼ばれる廃棄物が発生することを**認知**していた



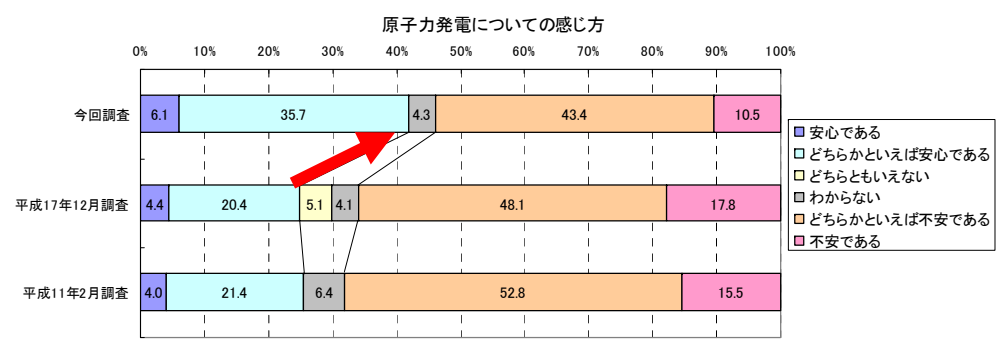
2. 原子力発電の推進に関する姿勢

- 原子力発電を推進する意見(積極的に推進していく、慎重に推進していく)が、平成17年調査に比して**増加**した(55.1%→59.6%)



3~5. 原子力発電についての感じ方等

- 原子力発電を安心と感じる意見(安心である、どちらかといえば安心である)が平成17年調査に比して**大きく増加**した(24.8%→41.8%)
- 安心だと思う理由としては、「**十分な運転実績**」を挙げる意見が最も多かった
- 不安だと思う理由としては、「**事故**」と「**地震**」を挙げる意見が多かった



6~7. 高レベル放射性廃棄物処分

- 高レベル放射性廃棄物の**処分地を、私たちの世代が責任を持って選定すべきという回答が80%を超えた**
 - 一方で、居住地の近隣に高レベル放射性廃棄物の処分地を設置することについては約80%が**反対**と回答した
 - 高レベル放射性廃棄物処分については、**いわゆるNIMBYの傾向**が現れている
- ※NIMBY(Not In My Back Yard: 産業廃棄物の処分場や発電施設などの整備に際して社会的に当該施設の必要性は認識しているが、その施設がいざ自分の家の近くに建設されるとなると、反対すること)